

協働事業評価書

事業名「和光市湧水環境調査事業」

事業主体：NPO 法人和光・緑と湧き水の会
担 当 課：環境課
評 価 者：協働推進懇話会（委員 8 名）
評 価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価 【◎○△】	評価内容	評価 【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎ 4 人 ○ 4 人 △ 0 人	事業スケジュール	◎ 2 人 ○ 6 人 △ 0 人	■全市的に、かつ総合的に調査の実施は高く評価できる。 ■湧水調査を通じて行政と水環境について知見を共有するとしての事業目的は十分に達成されている。 ■報告書をカラー印刷できるように工夫したのはよかった。進める中で柔軟に対応できた。 ■成果を測るために、フォーラムでアンケート等を実施すると良かった。 ■1 年間、じっくり時間をかけて多くの調査を実施している。事業の成果が「報告書」として微にいり細にいり、首尾良くまとめ上げられている。 ■報告書の作成が費用の都合で当初の予定どおり「製本」できなかったことが残念である。会員の協力により作成した努力は素晴らしいが、今回の報告書の性質は後世に記録として残す価値があるものなので、製本することが望ましかったと考える。
		事業成果	◎ 4 人 ○ 4 人 △ 0 人	
②協働の評価	◎ 3 人 ○ 5 人 △ 0 人	プロセスの積み重ね	◎ 3 人 ○ 5 人 △ 0 人	■役割分担については、団体の専門性と行政の特性を互いに発揮して、すすめられたと考えられる。 ■これだけの規模で丁寧に湧水調査ができたことは、NPO のマンパワーのなせる成果といえる。また、私有地内の井戸調査が実現できたのは、行政が関わったこそこの成果といえる。協働事業ならではの成果が得られている。 ■学術的な要素の多い報告書の作成だけではなく、この調査結果を今後どう市政に提言し協働事業として進めていくかが協働事業を実施する意味ではないか。 ■多くの市民や関係者の方々と、多くの時間を重ねて「報告書」として仕上げており、それまでに至るプロセスの苦労が伺える。多くの一般市民との触れ合いがあり、モニタリングや水質調査、歴史や変遷（推移）など、内容が充実しており、フォーラム等も開催され、市内外から多くの参加者があり評価できる。 ■悉皆調査は多くの人員と手間がかかるため実行することは簡単ではないが、ある時点においての記録を後世に残す上で非常に重要である。多くの会員を有する NPO の特性と市の特性を活かした事業として、今後も期待される。 ■井戸所有者への働きかけなどを通じて今後災害時等に活用していく際の先鞭をつけたことは事業の広がりとして高く評価したい。 【提案】 ■井戸水、湧水の防災・減災利用については、ぜひ関連課や自治会等と協力して進めてほしい。
		事業の広がり	◎ 1 人 ○ 6 人 △ 1 人	
		市民満足度の向上	◎ 1 人 ○ 7 人 △ 0 人	
		協働基本原則	◎ 0 人 ○ 7 人 △ 1 人	
		協働の成果	◎ 5 人 ○ 2 人 △ 1 人	
③総合評価 上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)				■市民にとって有益な事業であり、活動の広がりが期待できるものである思う。 ■報告書作成までには、多くの時間と、多くの市民との対話があったのだと思う。報告書を見ると、それが滲み出てくるようにわかる。和光市は都心に近く、交通の利便性が高いため住宅都市として発展している反面、自然豊かで湧水が豊富にあり環境に恵まれている。この豊かな自然環境をなるべく損なわないよう、発展していくことが今後の課題である。 ■市内に湧き水があるのは知っていたが、これ程の数とは知らず驚いた。この湧き水を様々な用途で利用できれば良いと考える。 【提案】 ■防災や都市計画などの分野で、調査結果の有効活用を期待する。また、湧水をはじめ自然環境に関する市民の啓発活動の継続をお願いしたい。 ■今回の調査結果が、今後は防災対策等で行政施策に反映されるような担当課の取り組みを期待する。また、団体の専門性が地域のさまざまな場面で活用されるように他団体との連携などの事業展開を行っていった欲しい。 ■今回の調査で得られた専門的な成果を、他団体、各種施設、他課と協力しながら、学校教育や社会教育で活用していくことが重要である。 ■市民活動団体による各種調査報告書類は貴重な成果があげられる一方で、その資料に対するアクセス権が十分に保証されていないものが見受けられる。市民や研究者の活用に供するため、今後どのような機関に納本することが望ましいか、どうすれば利用しやすくなるかを検討すればより一層貴重な成果になると考える。